

# しおんだより VOL.34



## 高齢者の誤嚥性肺炎を予防することが重要

私たちが何気なく行っている「食べる」という行動は、食べ物を見て→お口の中に取り込み→噛み→飲み込む等の一連の流れによって成り立っています。

これらの過程のいずれかが障害された状態を「**摂食嚥下障害**」と呼びますが、その有無が「**誤嚥性肺炎**」の発症と関係するために、高齢者が体調を崩すきっかけになり得ることが知られています。

国の統計によれば、2018年に年間およそ11万人の方が肺炎で亡くなっていますが、その7割が誤嚥性肺炎によるものと報告されています。超高齢社会を迎えた現在、摂食嚥下障害への対応は、単に医療面だけでなく、健康長寿の面からも非常に重要なのです。

当院では、誤嚥性肺炎でご入院される患者さんも少なくないですが、その治療が終わった後、ご自宅や施設へ退院するためには、食べられるようになることが欠かせませんし、同じ事を起こさないためにも、摂食嚥下機能を高めていく必要があります。

当院には、この規模の病院にしては珍しく（！？）2名の**言語聴覚士**が在籍し、毎日、患者さんのもとへ赴き、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、ケアワーカーとそれぞれの専門性を活かし、嚥下機能の維持・改善を目指しています。

話すことや聞こえの問題でコミュニケーションが取りづらい方、食べること、飲み込むことが難しい方をサポートする専門職が言語聴覚士です。

## 食べ物の形態や口や喉だけへのアプローチでは終わりません

高齢者の誤嚥性肺炎の治療や予防のためには、言語聴覚士が、単に食事の形態や口や喉の状態だけを考えては十分ではないと考えています。

全身状態の内科的安定性や栄養状態、認知機能、身体機能、活動レベルなどを包括的に評価する等言語聴覚士も、視野を広げて患者さんに関わっていくことが重要です。

また、食事を自力では食べることが難しい患者さんに対して、現場のスタッフが安全に食事の介助ができるように、新人のケアワーカーに向けて食事介助の勉強会も開催しています。

当院の言語聴覚士は、「思温病院に入院して良かった」と喜んでいただけるように、チーム思温病院の一員として、多職種と連携しながら様々な活動に取り組んでいます。



基礎疾患、嚥下状況、内視鏡検査の所見などを総合して、適切な形態の食事を、安全に摂取することができるように、サポートしています。

## 54歳にして、ついに、日傘男子としてDEBUTしました！？

この時期は、いつも暑い、暑いと言って過ごすのですが、それにしても今年の夏は暑いですね。まさに酷暑、猛暑という表現が相応しい、酷く、猛々しい暑さです。

外来でも熱中症で運ばれる方が増えています。ご自宅にいてもなられるかたもいらっしゃいますし、外出中に気分が悪くなって、道路でしゃがみ込んでいたところを、通りがかった方が救急車を呼んでくれて…という方もちらほらいらっしゃいます。是非、ご注意ください。

学生の時にボート部だった私は、日差しに当たってナンボと思ってやってきましたが、それももう30年前の話。

照りつけるという言葉では足りない日差しを見て、これはあかんと観念し、ついに日傘男子（おじさん？）としてDEBUTしました。数日使ってみた感想は快適。ワンタッチで開くだけでなく閉じることや軽いことにも驚きながら、使っています。もっと前から使っていたら良かった…なんて思いながら。（文責：狭間研至）



日陰を探して歩いている自分に気が付いて、それならと、ネット通販でメンズ日傘を購入。

しおんだより 第34号 発行日：令和5年8月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院  
1-1-31 電話06-6657-3711 HP: [www.shion-hp.or.jp](http://www.shion-hp.or.jp)

☎557-0034 大阪市西成区松